

定理

本来のグリムの法則が説明する子音対応

	印欧語	ゲルマン語
第1系統 摩擦音化	<i>p</i>	<i>f</i>
	<i>t</i>	<i>θ</i>
	<i>k</i>	<i>h</i>
第2系統 無声化	<i>b</i>	<i>p</i>
	<i>d</i>	<i>t</i>
	<i>g</i>	<i>k</i>
第3系統 非帯気化	<i>b^h</i>	<i>b</i>
	<i>d^h</i>	<i>d</i>
	<i>g^h</i>	<i>g</i>

- 「唇」「歯」「軟口蓋」の3つの調音点を考える。
- 3つの変化系統と3つの調音点で9の音素の対応が現れる。

英語学習という観点から異なる語派に由来する語の子音字の対応を表すように改変したもの

		ギリシャ語	ロマンス語	ゲルマン語
第1系統 摩擦音化	法則①	<i>p</i>		<i>f</i>
	法則②	<i>t</i>		<i>th</i>
	法則③	<i>k / c</i>		<i>h</i>
第2系統 無声化	—	<i>b</i>		<i>p</i>
	法則④	<i>d</i>		<i>t</i>
	法則⑤	<i>g</i>		<i>k / c</i>
第3系統 非帯気化	法則⑥	<i>ph</i>	<i>f</i>	<i>b</i>
	法則⑦	<i>th</i>	<i>f</i>	<i>d</i>
	法則⑧	<i>ch</i>	<i>h</i>	<i>g / y</i>

- 音でなく現代英語の「綴り字」の対応を反映
- 上の表で */k/* の音を持っていたスロットには *<k/c>* の文字が入る
(*<q>*もあるが稀なので今回は載せていない)
- *<c>* の文字が入った結果、現代英語ではこれが */s/*, */k/* の音で実現することに注意
- 法則⑥⑦⑧は、印欧語から各語派に至るまでに、グリムの法則以降も様々な音の変化を被った結果を反映している
(特に法則⑦⑧は言語マニア向け)

演習（解説なし）

おなじみの単語、あるいは未知の単語を、子音対応を手がかりにつなげていく練習をしましょう。今回重要なのは、ここに出てくる単語のうち、**特定の 1 語を暗記することではなく、語派を超えて単語のつながりを捉える思考法を身につけることです**。知らない単語が出てきたら、まずは自分で意味を調べてみることをおすすめします。その際、表の同じセルに含まれる単語とどのように関連するか、そしてそれらが隣のセルの単語とどのように関連するか、まずは自分で考えてみてください。

未知の単語と既知の単語を結びつける練習のため、あえて基本語から高難度の単語を混在させています。辞書を引いて単語をノートに書いて学習することを強くおすすめします。

【注意】

今回は、文字の対応を見つけやすいよう、**形態素の先頭文字の対応のみを考えます**。形態素とは、意味と機能をもつパーツ(接辞や語幹など)の最小単位です。

例えば、unexpectedly という単語は、un, ex, (s)pect, ed, ly という 5 つの形態素から成ります。

以下に用語の曖昧な部分を定義しておきます。

- <□> は綴り字、/□/ は音素を表します。
- ラテン語とそこから派生したフランス語・イタリア語・スペイン語などを総称して、「**ロマンス語**」と呼びます。
- 語派の分類は、原則として古い方の起源を優先しています。

ゲルマン語がロマンス語に借用され、(いわば逆輸入の形で) 英語に入ってきた場合、元のゲルマン語の音(or 文字)が保たれている場合は、「**ゲルマン語由来の単語**」に含めます。古ノルド語由来の単語も「ゲルマン語系の単語」に含めます。また、ロマンス語を経由して英語に借用されたとしても、もともとギリシャ語起源でその音(or 文字)を保っている場合は「**ギリシャ語由来の単語**」に含めます。

【法則① 《p-f》関係】

p aternal, p aternity, p atriot, p atriotic, p atrimony; p atron	f ather
p edal, p edestrian, p edicure, exp edite, exp edition, exp edient, p ioneer, p essimistic	f oot, f etter, f etch
p re-, p ro-, p rime, p rimitive, p rimary, p remier, p rimate, p rimordial, p rince, p rinciple, p ristine; p resbyter, p riest	b efore, f irst
p ort, pass port, im port, exp ort, com port, de port, p ortable	f are, f erry, f ord, f jord

【法則② t-th 関係】

t ent, t ense, t end, ext end, dist end, ost ensible, ost entatious, ret ain, det ain sust ain; tenu ous, extenu ate; tendon	thin
tort , tor que, tor sion, torture , tortu ous, distort , extort , retort , torment , torture	thwart
tumor , tumulus ; tomb	thumb , thigh , thimble , thousand
trio , triple , triangle , trinity , tribe ; testament , testimony , detest , attest	three , third

【法則③《c/k-h》関係】

ラテン語では <c> は常に /k/ の音でしたが、英語では <c> の文字を /s/ と /k/ という2つの音で読みます。また、綴り字の <c> は口蓋化という音変化の結果、<ch> になることがあります。「音」が変化している場合は、「文字」を手がかりに単語のつながりを見いだすことです。

captain, capital, cattle, chapter, chef, chief, achieve, precipice, precipitate	head, headlong
cone	hone
catch, chase, capable, captivate, accept, except, receive	have, heavy
corner, unicorn, corneous	horn

【法則③の発展形 《qu-wh》関係】

*kw- という祖語の音はラテン語では、<qu-> の綴りで現れ、ゲルマン語では <hw> で対応します。グリムの法則本来の /k/-/h/ の対応を反映している規則的な対応です。英語では、<hw> の綴りは古英語以降、文字の順番を入れ替えて（「音位転換」といいます）、<wh> の綴りになりました。

question, quest, inquire	what
quiet, tranquil, acquiesce	while

【法則④ 《d-t》関係】

d ecade, d ecimal, d ecimate, (d ozen)	t en, - t een, (t wo)
d ental, d entist, d andelion, i ndent; orthod d ontics	t ooth
ded d icate, index; de d ixis, de d ictic; d ictionary, pred d ict, dict d ate, bened d iction, juris d iction; abd d icate, ind d icate; jud d ge, prejud d ice	t each, t oken
d ermatology, d ermatologist, epid d ermis	t ear[v]

【法則⑤ 《g-k/c 関係》】

g e latin, congeal, g e l, jelly, g e lacial, g e lacier	cold, ch i ll, coo l
g e ntle, g e nlial, g e nteel; g e nerate, g e nlital, pregnant, g e nesls, g e netic, g e nlome, g e neratlon, g e nder, g e nlus, g e noclde, g e nealogy, nature, native, innate, renaissance	k i nd, k i n, k i ndred, k i nship, k i ng
recog n lze, cog n lition, incog n lito, diag n osis, note, connote, notice, notion,	k n ow, k n owledge, ack n owledge, can, c u nnlng, unc o uth

【法則⑥ 《ph-f-b》関係】

印欧語の帯気閉鎖音は各語派で、それぞれ別の音(or 文字)に変化します。ギリシャ語系とロマンス語系でも違う音(or 文字)になるので、別々に表記します。ギリシャ語系の同族語が英単語にない場合も多いですので、マニア以外はギリシャ語の列は参考程度にとどめておくとよいでしょう。

ギリシャ語系	ロマンス語系	ゲルマン語系
metaphor, euphoria	transfer, suffer, infertility, fertilize	bear, bring, birth, burden
	flower, floral, flora, flourish, flour, folio, foliage	bloom, blossom, blood, bleed, bless
	flame, flagrant, conflagration, flammable, flamingo	blaze, blond, blind, blend, bleach, bleak, blemish, black
	refute	beat, bat, battle, debate, rebut

【法則⑦ 《th-f-d》関係】

法則⑦では、ロマンス語系の文字が法則⑥と同じく<f>で現れます。法則⑥と⑦だと、⑥の方が多くの単語の関係に表れるので、こちらの法則⑦はやや優先度は下がります。今までのところで不安がある人は、一度法則①から⑥までをしっかりと復習してから進む方がいいでしょう。

theme, hypothesis	synthesis, fact, feat, -fy	do, deed, indeed, doom, deem
	figure, fiction, feign, feint	diary, dough, lady
	fume, perfume, obfuscate	dizzy, doze, dust, down, duvet, deaf, dumb
	fabric, fabricate, forge	deft, daft

【法則⑧ 《ch-h/f-g/y 関係》】

このグループも法則⑦と同じく上級者向けです。古英語の綴り字 <g> は /g/, /j/ の音で発音されており、現代英語では /j/ の半母音は <y> で書くようになりました。また、ギリシャ語系では <ch> は /k/ の音価です。

charisma, eucharist	exhort, hortative	greedy, yearn
xenophobia	host, hospital, hostel, hostage, hostile	guest
alchemy	fuse, refuse, confuse, profuse, fusion	gut, gust, gush
chasm	hiatus	yawn, gape, gasp